

建物の考古学 1. 大壁造り

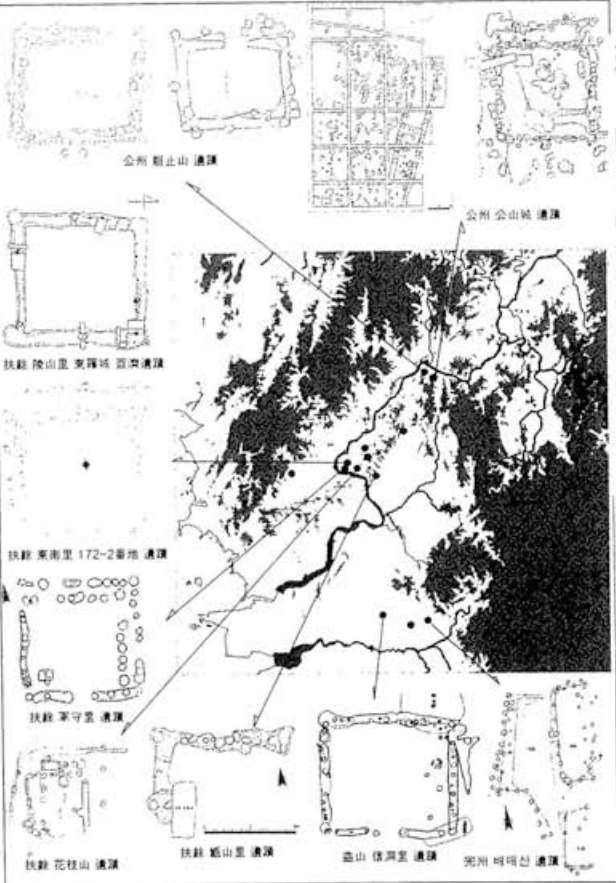
今回から建築遺構の発掘について連載します。第一回は大壁造りの家屋です。

日本民家集落博物館には、福井県敦賀市から移築された民家があります。江戸時代、18世紀後半から19世紀初め頃の建築で、旧山下繁氏宅を阪急電鉄K. K. が寄贈されたものです。大阪府指定有形文化財になっています。この建物の特徴の一つが、柱を塗りこめた大壁造りです。

古代建築の発掘でも、大壁造りの遺構が近畿各地から見つかっています。それらは概ね図2. のような遺構で、家屋の四周に溝を掘り、溝の中に壁の芯となる縦木舞（たてこまい）を埋めこんでいます。このような遺構は、今のところ5世紀以降に出現しますが、朝鮮半島でその頃に使用されていたのとよく似た土器がいっしょに見つかったり、遺構自体の類型が朝鮮半島で知られていたりすることから、渡来者集団と深く関わっていると考えられます。

ところで、彰国社刊の『建築大辞典』を見ると、大壁造り-1. 江戸時代において塗屋造りのこと。柱は外では隠れているが内部では見えている。2. 内部においても外部においても柱が表に現れない壁構造→しんかべづくり。とあります。同じ大壁造りという用語を使っても、考古学界が目目している前述の建築遺構には、より特徴的な建築技術が現れていることを注意すべきでしょう。

(財.大阪府文化財センター 福岡澄男)



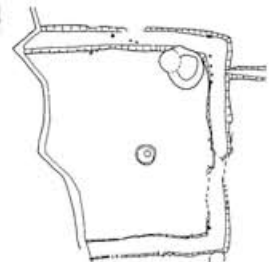
- | | | | |
|----------|------------|-----------|-------------|
| 1 高峯古墳群 | 10 明良古墳群 | 19 大谷遺跡 | 28 長尾池ノ内古墳群 |
| 2 苗圃古墳群 | 11 雄山古墳群 | 20 大谷古墳群 | 29 太鼓屋古墳群 |
| 3 平石古墳 | 12 兼立山古墳群 | 21 大谷南古墳群 | 30 大伴古墳群 |
| 4 丸山古墳 | 13 兼立山東古墳群 | 22 大通寺古墳群 | 31 福王子古墳群 |
| 5 茶臼山古墳 | 14 天神山古墳群 | 23 小山古墳群 | 32 手佐山古墳群 |
| 6 草塚古墳群 | 15 矢倉古墳群 | 24 藤塚古墳 | 33 山田古墳群 |
| 7 根古墳 | 16 中山古墳群 | 25 熊ヶ谷古墳群 | 34 皇子山古墳群 |
| 8 日吉古墳群 | 17 穴太野部古墳群 | 26 百六古墳群 | 35 都屋ヶ谷古墳 |
| 9 真基原古墳群 | 18 穴太野部古墳群 | 27 宮ノ前古墳群 | |

熊津期・泗沘期の大壁建物址の現状
 全南慶(仮)土田秘子「百濟大壁建物の現状と発跡」明日香風124号
 2012.



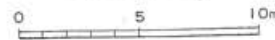
大壁造り家屋

1. 旧山下家住宅



2. 滋賀県大津市 滋賀里の発掘遺構

6世紀後半



▲ 民家集落ふるさとにより 23号 2004.
 (財)大阪府文化財センター、日本民家集落博物館
 ◀ 廻止山 国立公州博物館 1999.

大津北郊における古墳分布図(「大通寺古墳群」(滋賀県教委1995)より転載)